

# Michael T. Klare *The New Geopolitics of Energy*

## (2008) 査読評価書

平成 20 年 4 月 17 日

山形浩生

### 1. 概要

エネルギー（特に石油）の枯渇と途上国の近代化によって、世界各国のエネルギー需要は高騰し、エネルギー争奪戦が今後の地球の地政学を決めるにあたってきわめて大きな要因となりつつあることを示した一冊。

第八章までは、これまで起こったエネルギーや資源関連の各種政治的な動きを要領よくまとめており、それなりに読める。アメリカのユノカルを中国企業が買収しようとして阻止された一件を皮切りに、中国の資源外交の熾烈さ、ロシアや各種中央アジア諸国の動き、それに対するアメリカのイニシアチブなどがかなり詳細に描き出されている。

ただしそれに対し最終章の今後の動きについての部分は、代替燃料の問題点について指摘したうえで、さらなるアライアンス云々と述べ、今後さらに合従連衡が進むであろうと言うだけでちょっと拍子抜け。ただしこのレベルの本に斬新な解決策を要求するのはお門違いではあるので、これは仕方ない。

目下世界的に注目されているトピックであり、話題性はあるし、時事本としてはよいでき。ただし時事ネタが中心なので古びる速度がはやい（すでに中国がエネルギー省を作ったりしている）。このため、翻訳その他は特急でやらないと鮮度がどんどん落ちる。またすでに類書があれこれ出始めており、極端に特色をうちだしにくいのが難点。

### 2. 著者について

不詳。

### 3. 章ごとの要約

#### 序章 ユノカル事件

アメリカの石油会社ユノカルが、中国の国有企業 CNOOC に買収をかけられた。最終的

に中国による買収は成功しなかったが、それはむしろ政治的な判断によるものだった。「国家安全保障の観点から買収は望ましくない」との声が議会であがり、これにより買収に対して新しい審査条項が加わったために中国は買収をあきらめた。これが示すように、エネルギーがこれからの国際政治においてきわめて重要な役割を果たすようになっている。

## 第一章 国の変化

なぜエネルギーがこんなに重要になったのか？ 生活が高度化して産業がエネルギーをたくさん使うようになり、途上国、特に中国インドが大きく発展してきてエネルギーの大使用者となりつつあるため。このため、産油国がえらそうになってきている。石油だけでなく、天然ガスも重要。このためロシアや中国は活発な資源外交を展開中である。そして他の国も、民間レベルではなく国家としてエネルギー獲得に動き出している。

## 第2章 石油発見量の減少

石油はそろそろピークに達するはず。新しい油田はなかなか見つからない。また天然ガスもそんなにない。石炭はそれなりにあるので、みんなまた注目しているが、地球温暖化であまりいい顔をされない。ウランもそんなにないことがわかっている。

## 第3章 中国とインド

中国とインドは、発展にともなってエネルギー使用を大幅に増やしつつある。このため、エネルギーやその他天然資源確保にものすごい動きを見せている。

## 第4章 エネルギーの覇者

エネルギー需要の高騰でロシアの地位が高まってきている。シベリアの石油目当てに、中国と日本も競り合っている。

## 第5章 カスピ海の枯渇

エネルギー需要のため、カスピ海周辺の諸国も注目を集めており、各国が急にもみ手をしている。アメリカ、イギリス、中国などが活発に活動している。

## 第6章 アフリカ争奪戦

アフリカに対する資源外交も活発化している。アメリカ、中国などが活動。これでアメリカは儲かっているように見えるが、本当に便益が地元には落ちるかは疑問。

## 第8章 アメリカの池への浸食

中東でアメリカと仲のいい地域も、だんだん他国が手を伸ばしてる。イラク戦争でアメリカの中東での立場も危うくなりつつある。

## 第9章 今後の見通し

今後も状況は改善しない。代替エネルギー開発は進んでいるが、とても石油を置きかえられるほどではない。このため、今後各種の合従連衡や政治的駆け引きが見られるようになるだろう。

## 4. 本書の見所

第八章までは、これまで起こったエネルギーや資源関連の各種政治的な動きを要領よくまとめ、それなりに読める。アメリカのユノカルを中国企業が買収しようとして阻止された一件を皮切りに、中国の資源外交の熾烈さ、ロシアや各種中央アジア諸国の動き、それに対するアメリカのイニシアチブなどがかなり詳細に描き出されている。時事的なニュースの押さえや、それを全体的なパースペクティブにおさめる手腕はそこそこ上手。重要な事件もおおむね押さえ、概観としては有用。

ただし、本書ならではのまったく新しい情報があるわけではない。ほとんどの内容はネットやニュース検索すればそれなりにわかる内容である。またそれに対し最終章の今後の動きについての部分は、代替燃料の問題点について指摘したうえで、さらなるアライアンス云々と述べ、今後さらに合従連衡が進むであろうと言うだけでちょっと拍子抜け。ただしこのレベルの本に斬新な解決策を要求するのはお門違いではあるので、これは仕方ない面もある。

時事的なネタが多く、早く訳せればそれなりに意味はある。

## 5. その他

目下世界的に注目されているトピックであり、話題性はあるし、時事本としてはよいでき。ただし時事ネタが中心なので古びる速度がはやい(すでに中国がエネルギー省を作っ

たりしている)。このため、翻訳その他は特急でやらないと鮮度がどんどん落ちる。またすでに類書があれこれ出始めており、極端に特色をうちだしにくいのが難点。おそらく並行して類書がいろいろ登場すると思われ、競合の状況が懸念はされる。